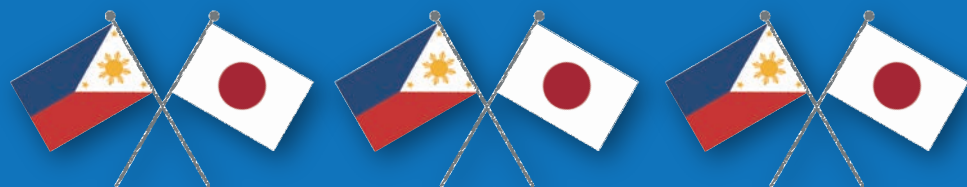


KIFA 河内長野市国際交流協会

Report



Vol. 119
Apr. 2022



- 設立 30 周年を迎えて
- 姉妹都市カーメルからのメッセージ
- 多文化の部屋 ～パラグアイ編～
- 国際料理教室 ～お花見弁当～
- スピードレシピ ～レンジピザ～
- インフォメーション
- ネットで里帰り ～フィリピン訪日団との交流会～
- ウクライナに平和を



設立 30 周年を迎えて



KIFA 会長 柴 理梨亜



皆さんこんにちは。

日頃から河内長野市国際交流協会 (KIFA) へのご支援ご協力ありがとうございます。

KIFA の設立30周年を盛大にお祝いしたいところですが、新型コロナウイルス感染以外に突然として悲しいニュースが飛び込んできました。

当協会としては、世界平和を目指して活動を続けていますが、今回はウクライナの多くの人々が戦争に巻き込まれて、平穏な日常生活や命まで奪われ、美しい街並みや歴史的財産が破壊されています。

平成 22 年に OSAKA IN THE WORLD の交流プログラムでウクライナの首都キエフから大学の舞踊団「ロクソラーニャ」の皆さんが来日して、河内長野市内の家庭でホームステイしながら、学校を訪問して子供たちと交流し、市民交流センターで伝統音楽と舞踊を披露してくださいました。そのメンバーの中には 2 月に出産したばかりで、赤ちゃんを連れて避難しているという人もいます。男性たちは支援物資を集めて市民に配布するなどの活動をしています。毎日皆さんの安全と幸せを祈るばかりです。また、ロシアから来日したメンバーからもメッセージが届きました。「こんなことが起こるなんて信じられない！

もうすぐインターネットが制限されて、連絡が取れなくなりそうです！早くウクライナに平和が来ることを祈ります。」

人権の尊重と命の大切さは揺るがないものとしたいですが、何が正しいか何が間違いかは考えや習慣、環境によって異なります。それを理解して尊重することが、多文化共生の実現へ導いてくれると信じています。自分と考えが異なる人の行動を間違っていると指摘するよりも、なぜそのような行動をとるのか理解することが大切だと思います。新型コロナウイルスの発生でアジア系の住民が様々な国で迫害を受けたように、今回はロシア出身であるだけで、標的にされているケースもあります。ロシアの人々も戦争で苦しみます。ロシア人もウクライナに親戚や友人がいますし、多くの一般国民は戦争に反対を訴えています。どうか、早く両国の住民が平和な暮らしを取り戻せるように願います。そして、われわれが一人ひとり、どのような支援ができるのか、これから平和を守るためにどのような活動に取り組みばよいのか、子どもたちに平和の大切さをどのように伝えていけるのかを改めて深く考えることが必要だという課題を突き付けられたように感じます。皆さんの力も貸していただけたら嬉しいです。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。





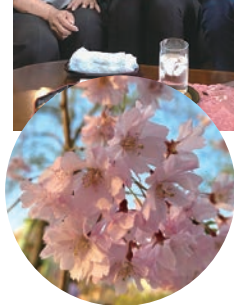
様々な交流



カーメル国際アートフェスティバル (CIAF)
ブレナード市長と姉妹都市委員会のバーバラ・モジャーさんと



「河内長野日本庭園」
in Carmel



カーメル市民との交流会



姉妹都市子ども絵画交換

姉妹都市カーメルからのメッセージ



アメリカ インディアナ州 カーメル市 市長
ジェームズ・ブレナード氏



インディアナ州カーメル市長のジェームズ・ブレナードです。河内長野市国際交流協会、KIFAの設立 30 周年を心よりお祝い申し上げます。

また姉妹都市提携 25 周年を記念して KIFA により河内長野市役所に隣接するプラザにモニュメントが完成し、そこに私達が贈ったアーツアンドデザイン地区のサインが飾られたことを心より光栄に感じ嬉しく思います。

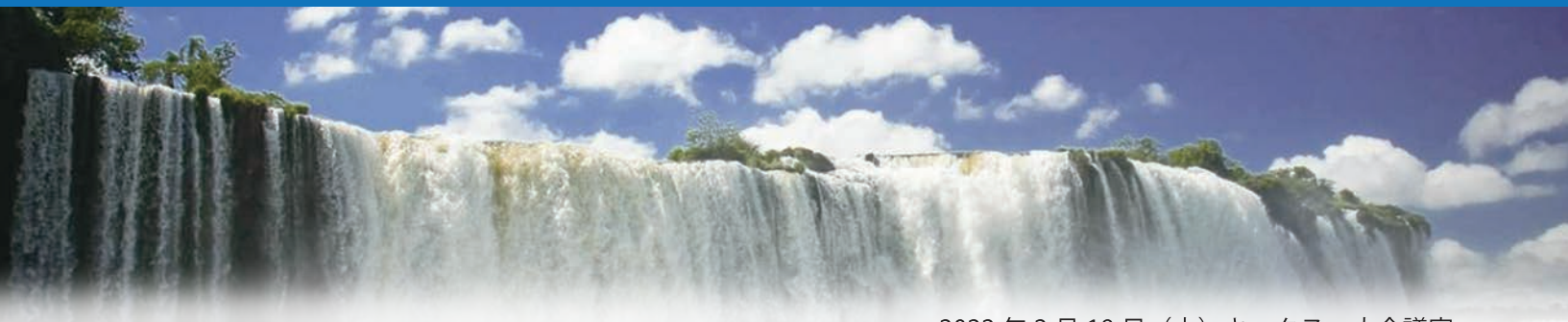
前会長の山本明彦氏は、カーメル市にとっても私個人にとっても真の友人でした。彼が彼の父上と共に私達の連携した組織の基盤を築いた事に感謝したいと思います。また、KIFA の皆様、河内長野市の皆様の友情とご協力、そしてカーメルの日本庭園の夢の実現にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

また、皆様の積極性は私達に大きな影響を与えました。忍耐を持ってすれば、私たちは新しい目標やアイデアを達成して、

Covid のパンデミックなどにさえ前向きに取り組むことができます。共に協力し、人々の健康と世界平和、そして永遠の友情の実現に向けて歩いていきましょう。

コロナ禍がおさまりましたら、是非カーメルを訪れて新しい友達に会いに来てください。皆様とまたカーメルでお会いできるのを楽しみにしております。





2022年2月19日(土) キックス 大会議室

ゲスト こうさか あゆみ 幸坂 歩さん

今から10年前の2012年、南米からやって来た褐色の「マテ茶」というペットボトルのお茶が、一躍世間の注目を集めたのを覚えていますか? 健康効果の高いことから“飲むサラダ”と言われ、赤や黄色の鮮やかなラテンの太陽が描かれたラベルに思わず手を伸ばした、という方も多かったのではないのでしょうか。今回の多文化の部屋は、そんな日本でも馴染みのあるマテ茶の一大原産国でもあり、マテ茶を愛してやまない南米の国「パラグアイ」。

パラグアイは日本から見てちょうど地球の反対側に位置する、日本から一番遠い国とも言われています。また、若年層の割合が多く、なんと人口の73.7%が34歳以下! 人口増加が今後も見込まれる成長期真っただ中にある国、とも言えます。今回のゲスト、幸坂歩さんは、日本から移住した両親の間に生まれ、現在は河内長野に在住・在勤というご経歴の持ち主。幸坂さんいわく、パラグアイまで飛行機で片道なんと38時間もかかるため、履いてきた靴も、飛行機を降りる頃には入らなくなっているそう! 機内では歩くことと、替えの靴が、欠かせないそうです。

気の遠くなりそうなほど遠い国パラグアイですが、現地の人々にとって、生活から切っても切り離せない大切なものの1つが、冒頭で述べたマテ茶です。パラグアイ人は、炊飯器ほどある“テルモ”と呼ばれるマテ茶の入った水筒と、“グアンパ”というマテ茶専用のカップ、“ボンビージャ”という金属のストローの三点セットを必ず携えて出かけるほどの、マテ茶好き。それぞれの好みにブレンドしたマテ茶を気軽に仲間とシェアし、大学の講義中に先生が学生に「ちょっとちょうだい。」というような事もあるほど、マテ茶は生活するうえで、欠かせないものだそうです。夏は“テレレ”、冬は“マテ”と呼び名が変わるマテ茶。ときに気温が47℃～50℃にもなる場所もあるというパラグアイに住む人々



マテ茶の「3点セット」



典型的な家庭料理、エンパナーダ

にとって、マテ茶はこまめに水分補給するための大変重要な役割も果たしているのだそうです。

続いて、パラグアイの大豆農家のびっくりエピソード

をご紹介します。南米屈指の農産物輸出国でもあるパラグアイですが、中でも大豆農家は1軒あたり、平均約300ヘクタール(東京ドーム64個分)、大農家ではなんと1万ヘクタール(東京ドーム2,138個分)もの農地を所有しているのだそうで、驚くことに、600～700ヘクタールほどの農地を通常3～4人の一家だけで切り盛りすることが多いというのです! なぜそんなことが可能なのかというと、1台で1軒の家が建つほど高価な大型機械を燃料補給時以外ノンストップで数日間稼働させ、収穫と次の植付けを同時に行うのだといいます。そしてその間、オペレーターを勤める家族に対し他の家族はただひたすら延々と、燃料と食料を運び続けるのだそうです! パラグアイの大豆輸出高が、アメリカや周辺国のブラジル・アルゼンチンなどの大国に次ぎ世界第4位であるということにも納得です。大豆のシーズンがやがて終わりを迎えると、今度はひまわり油を穫るためのひまわり畑へと農地は大変身するのだそうですが、幸坂さんいわく、あまりに多くのひまわりが一緒にこちらを向くので、美しいというよりも怖いくらいなのだそうです。(笑) また、その種目当てでやって来る鳩たちをショットガンで追い払うというエピソードも、なんとダイナミックでした。

最後に幸坂さんは、パラグアイに生息する手のひらサイズのバッタやワニほどの大きさのイグアナ、天井から蛇が入ってくるエピソード等を語りながら、「どうですか? 皆さん。パラグアイに行ってみたくありませんか?」と、なんともいたづらっぽく微笑んでおられました。パラグアイ人には「今日楽しければいい」という明るく楽観的な人が多いという幸坂さんの言葉通り、その気さくなお人柄から参加者からの質問もやむことがなく、終始楽しい雰囲気で大盛況に終わった今回の多文化の部屋でした。2019年で外交関係樹立100周年を迎えたパラグアイと日本の友好関係が、今後もさらに発展し、ますます深まっていくことを願います。



ゲストの幸坂さん

国際料理教室 ～日本編～

2022年2月26日(土)
キックス 食工房

お花見弁当を作しましょう

暦の上ではもうすぐ春ですが、まだまだ寒い2月の末、国際料理教室が開催されました。

今回のメニューはお花見弁当です。いつもは外国の方を講師に迎え、お国料理や家庭料理を教えていただくのですが、今回は、千代田公民館などで、エコ・クッキングの普及のための講座を開催しておられる「地球号クッキンググループ」の代表の木之下 純子さんを講師に、濱 美沙子さんをアシスタントに迎え、「お花見弁当」の作り方を教えていただきました。

メニューは「レンコンしゃきしゃき鶏つくね」、「花巻き寿司」、「春野菜の甘辛煮」、「ほうれん草くるみ和え」とお花見弁当にはぴったりの料理ばかり。もちろん化学調味料は使わないで、ご飯も鰯節で取ったお出汁で炊き上げていきます。

今回の参加者は男性も含め、10名。4つのグループに分かれて料理を作っていきます。

一品目のつくねに使うレンコンは皮を剥かないで綺麗に洗うだけ。この方が、シャキシャキ感が出るそうです。ここで新兵器の登場です。容器にレンコンを入れ、紐を引っ張ればあっという間にみじん切りの出来る野菜チョッパーです。具材がそろったら混ぜ合わせてフライパンに。おいしそうな匂いが漂ってきます。

二品目はメインディッシュの花巻き寿司です。断面を桜の花のようにする、キャラ弁ならぬ、キャラ寿司です。でんぶで桜色にした寿司飯で細い海苔巻き何本も作り、花びらにしていきます。



講師の木之下純子さん、濱美沙子さん

さすがに大変です。テレビで見たことのある飾り巻き寿司を作る職人さんのすごさが身にしみます。「こんな手間のかかること、絶対家ではせえへんわ・・・」と笑いながら作っていた方々も、完成して包丁を入れた断面を見て「オーッ！」でした。

時間の関係で、教室で作ったのはこの二品まででした。残りのメニューは、ワイワイやっているうちに、先生が手早く作ってください、皆にお裾分け。紙のバックに綺麗に詰めてお花見弁当の出来上がりです。コロナの影響もあり、お持ち帰りいただいてステイホームでお弁当を楽しんでいただきました。

この「お花見弁当」を作ってみたいなと思われた方、KIFAのホームページにレシピを掲載しておりますので、ご覧ください。



～「お花見」こぼれ話～

「お花見」は日本の春の風物詩ですが、いつごろから始まったかで存じでしょうか？

諸説あるようですが、奈良時代に貴族が花観賞を行ったのが始まりのようです。今では、花見と言えば桜ですが、当時桜は、神の宿る神聖な木として扱われていたため、主に梅の花が観賞されていたようです。平安時代に入ると、貴族たちは次第に桜を春の花の代表格として愛でるようになり「源氏物語」に桜の下で宴を開催している宮中の様子が描かれています。

貴族たちは桜を観賞して楽しむ目的で花見をおこなっていましたが、農民はまた異なる目的で花見をしていたといわれています。春の到来は農民にとって田畑を育てる始まりの季節であり、春の訪れを告げる花が咲くと、厄を祓う宗教的意味とともに花が愛でられていたそうです。花を愛でる行事は祭事として期日が決められ、その日になると野や山へ出かけて花を愛でる「野遊び」や「山遊び」がおこなわれていました。そのなかには桜の木もあり、その下で楽しむことで、神と過ごし五穀豊穡を願ったのでしょう。

現代のような、純粋な楽しみとしての花見が庶民に広まったのは、江戸時代以降からだといわれています。由来を考えると、桜の木の下で、お酒を飲んでどんちゃん騒ぎをするのはバチ当たりかもしれませんね。



ステイホームにおすすめ！スピードレシピ！

～電子レンジで簡単！ レンジピザ～



「ピザ」というと、なんだか手がかかりそう、と思ってしまいますが、このレンジピザは、材料があれば 30 分で出来上がり！ お試しください。

<材料 1 枚分>

◎生地

強力粉	100g
牛乳	70cc
バター	小さじ 2
塩	少々
砂糖	大さじ 1
ドライイースト	小さじ 1



◎トッピング

オリーブ油	大さじ 1
ニンニク	1 片（みじん切り）
トマト	1 個（半月切り）
ピーマン	1 個（輪切り）
ピザソース	適宜（トマトケチャップでも可）
ミックスチーズ	適宜



- ① 牛乳とバターを耐熱ボウルに入れ、ラップして電子レンジ600wで30秒。残りの生地を材料を合わせて丸め、ラップして電子レンジ200wで30秒。（1次発酵完了）
- ② 生地を一度練り直したあと、ラップして10分間室温で寝かせる。
- ③ 生地をガス抜き、オーブンシートを敷いた天パンに丸く伸ばし、フォークなどで生地に穴をあける。
- ④ オリーブ油を塗り、ピザソースを塗り、ニンニクを散らし、チーズ、トマト、ピーマン等を載せて、もう一度オリーブ油を上からかける。
- ⑤ 200度に加熱したオーブンで10～12分焼く。
※オーブントースターでも焼けます。
※※フライパンでもOK。オーブンシートを敷いてピザを載せ、必ず蓋をして弱火で焼きます。チーズが溶けて、生地が焼けたらできあがり。チーズに焼き色を付けたい時は、オーブントースターで仕上げ焼きしてください！



●日本語サロン スケジュール

月	曜日	日曜 Sun.	火曜 Tue.	木曜 Thu.
4月	Apr	3・10・17・24	5・12・19・26	7・14・21・28
5月	May	8・15・22・29	10・17・24・31	12・19・26
6月	Jun	5・12・19・26	7・14・21・28	2・9・16・23

<開講場所と時間>

日曜日 Sundays 14:00～16:00
千代田公民館 2階
火曜日 Tuesdays 10:00～11:45
市民交流センター (KICCS) 3階
木曜日 Thursdays 18:00～20:00
ノバティ南館3階 ノバティホール

●語学クラブ スケジュール

○英語フリートーキング 予定講師

4月 Jonesさん（英国） / 5月 Rieさん（ネパール） / 6月 Kosakaさん（パラグアイ）

コース	英語 フリー トーキング	英語 (中級)	英語 (初級)	中国語 (中級)	中国語 (入門)
時間	14:00～15:30	19:00～20:30	19:00～20:30	19:00～20:30	10:00～11:30
開講日	4月 9	12・26	5・19	8・15	6・20
	5月 14	10・24	17・31	6・20	11・18
	6月 11	14・28	7・21	3・17	1・15

■KIFAの語学クラブ 2022年度募集中 ～外国語から広がるグローバルな心の豊かさ～

言葉だけでなく、各国の人々の暮らし、歴史、文化への理解も深めませんか？

- ところ：キックス 河内長野市立市民交流センター 会議室
- 対象：KIFA 会員 ※非会員は要入会（年会費 2,000 円）
- 言語：英語、韓国語、中国語、スペイン語、タイ語
- 定員：各コース 先着 15 名

参加希望人数が5名未満の場合は原則として開講いたしません

- 申込み：電話で国際交流協会へ ただいま受付中
- 支払方法：振り込みまたはKIFA 事務局にてお支払い

（火～土曜の 9:00～17:15）

参加費の支払いをもって申込み完了

- 参加費：1 年間（22 回） 15,400 円 前後期の分割払い可
※英語フリートーキングは各回 700 円ずつのお支払い

■日本語サロンスタッフ研修公開講座 対話力を身につける「できる日本語」の使い方 実りある多文化共生社会の実現に向けて



「できる日本語」シリーズの監修など多くの著書の執筆で有名な嶋田和子氏を講師にお迎えして、「自分のこと／自分の考えを伝える力」「伝え合う・語り合う日本語力」を身につけることを目的とした教科書の使い方を学びます。

- とき：2022 年 6 月 18 日（土） 14：00～16：00
- ところ：市民交流センター 3 階 大会議室
- 講師：嶋田 和子氏
- 対象：日本語ボランティア活動に関心のある方や既に活動中の方
- 定員：35 名（先着）
- 申込み：6 月 3 日（金）から電話またはメールで事務局へ

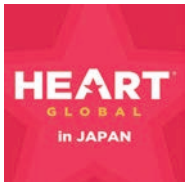
■2022年度国際交流協会総会

河内長野市国際交流協会の総会を以下の日程で開催いたします。

- とき：2022 年 5 月 29 日（日） 10：00～12：00
- ところ：市民交流センター 3 階 大会議室

■ハートグローバル Heart Global in 河内長野

若者の素晴らしさを音楽によって社会に伝えようとアメリカで設立されたヤングアメリカンズ。その教育プログラムを作り上げてきたメンバーが新たに設立したのが表現教育団体、“Heart Global”です。音楽やダンスを通して世界中で繋がりを築き、未来を担う若者たちを育むことをミッションに掲げています。学校や地域に音楽出張授業を行う「ミュージック・アウトリーチ」や、オンラインによる表現教育プログラム「Global E-workshop」など、さまざまなワークショップを実施します。



Covid-19 のパンデミックのため、2 年に亘り開催できなかったミュージック・アウトリーチのワークショップですが、今年度は河内長野でも 6 月 3（金）、4（土）、5（日）の日程で開催予定です。



★実際の開催日程や参加方法などについては、じぶん未来クラブのサイトをご覧ください。

https://www.jibunmirai.com/musicoutreach_info.html



■問い合わせ・申込み■

河内長野市国際交流協会 (KIFA)
事務局

〒586-0025 河内長野市昭栄町7-1
市民交流センター(キックス) 3 階

TEL: (0721)54-0002

FAX: (0721)54-0004

Eメール: office@kifa-web.jp

コース	スペイン語 (初級)	韓国語 (中級)	韓国語 (初級)	韓国語 (入門)	タイ語 (初級)
時間	19:00~20:30	13:00~14:30	10:40~12:10	15:00~16:30	19:00~20:30
開講日	4月	15・22	13・27	13・27	8・15
	5月	6・20	11・25	11・25	6・20
	6月	3・17	8・22	8・22	3・17

ネットで里帰り ～フィリピン訪日団との交流会～

2022年3月12日(土)
キックス 大会議室



2019年まで、毎年のように河内長野にフィリピンの民族舞踊を届けてくれていたランディ・レロ氏と彼の率いるダンスグループ、CPU とのオンラインでの交流会が開かれました。

この2年間、お互いにコロナのために色々不自由な時を過ごしてきましたが、当日はそれを一気に払拭するような楽しい時間を共有することができました。会場には、来日時にフィリピンのCPUの学生たちを迎えてくれたホストファミリーの皆さんに集まってい

ただきました。Zoomでのオンライン交流だったので、河内長野市のイズミヤ内の「ゆいテラス」で開催中のイベント会場や自宅から参加する方もいました。普段メールやメッセージなどで互いに連絡を取り合っている、実際に顔が見え、声が聞こえたりすると、つい感極まってしまつて声をつまらせたり、涙ぐんでしまう場面も。2年の時が流れ、自分たちの新たな人生へ足を踏み



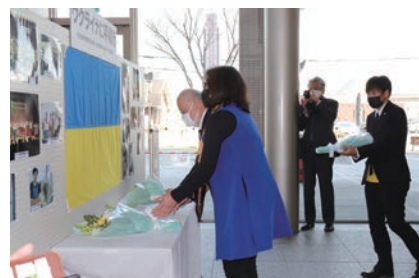
出そうとしている学生もいました。早くコロナが収まって、普通の日常が戻ってきて、彼らの優雅な、時には勇ましい踊りが河内長野で見られる日が待ち遠しいです。

ウクライナに平和を

河内長野市では、3月1日に同市議会が「ロシアによるウクライナへの侵攻を厳しく抗議する決議」を全会一致で可決するとともに、島田 智明市長がロシア連邦のプーチン大統領に抗議書を送っています。また、ウクライナの人々への連帯の意志や平和への願いを示したいとの声が市民から寄せられていました。

これらの動きを踏まえ、過去にウクライナの舞踊団を受け入れて市民との交流を深めた経験のあるKIFAが、「私たちに今できることをしよう」と企画し、市民交流センターエントランスへの献花台の設置に至りました。また、同市で平和人権活動を行っている河内長野市人権協会（安達英行会長）もこの取り組みに賛同し、献花台に掲げるウクライナ国旗が提供されました。

一刻も早く安全で安心なウクライナに戻り、ロシア、ウクライナの両国民に平和が訪れますように



日々増えていくお花と手書きのメッセージ

コロナ禍で、開催の是非まで問われていた東京五輪、北京五輪も火種を抱えながらも、なんとか無事に終わりました。

1964年の前回の東京五輪の時、私は中学生でした。あの頃はとにかく「ガンバレ ニッポン!」でした。一番感動したのは、閉会式でした。色んな国の選手が整然とではなく、ごちゃまぜになって肩を抱き合って笑う姿は最高でした。「泣いています!笑っています!」のアナウンスは今でも耳に残っています。あの頃、テストに「ステート・アマ」とは?なんて出たあなんて思い出しました。あれ?オリンピックってアマチュアのスポーツの祭典じゃなかったっけ?どうみても、今はプロが出場している・・・気になってオリンピック憲章を調べてみました。

五輪は長らくアマチュアだけに扉が開かれた大会でした。スポーツは金もうけの手段ではないとするアマチュアリズムを掲げ、当初は学校の体育教師さえアマとは認められなかったようです。ところが20世紀後半になると、人気スポーツのスター選手に注目と資金が集まるのは当たり前の時代になり、国が選手を選抜して育成するステート・アマの存在もあり、IOCは1974年に現実にそぐわなくなったアマチュア規定を五輪憲章から削除しました。以後、ロス五輪から一気に進んだ五輪の商業化とともにプロ化が加速、五輪は世界最高峰のプロが集結する祭典に変貌していったようです。

プロと言っても、国が選手を選抜して育成する場合もあり、特に北京五輪では、「お国のために」と悲壮感のただよう選手も見受けられました。本当にわくわくしながら楽しめたのは、カーリングのロコ・ソラーレくらいかな。

平和の祭典と呼ばれる、オリンピックでも、各国の思惑が絡んできて、あまり聞きたくも無いような話も耳に入ってきました。私たちが目指している「多文化共生」も結局のところ、国と国とのつながりではなく、同じ人間としての個々人のつながりだなあという思いを新たにしました。全世界が平和でありますように。

無料
メールマガジン
配信中!

KIFAの楽しいイベントや情報をいち早くお知らせします。
お申し込みは、事務局または、KIFAホームページから

<http://www.kifa-web.jp/>



isshe